

## 令和3年度第4回 田原本町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会議事要旨

開催日時 令和4年1月24日（月） 10時30分～

場所 田原本町役場 301・302 会議室

出席者 田原本町議会議長 植田 昌孝  
(敬称略) 田原本町議会総務文教委員会委員長 藤井 誠人  
公立大学法人奈良県立大学地域創造学部教授 小松原 尚  
一般社団法人田原本まちづくり観光振興機構理事 服部 誠  
田原本町自治連合会会長 山田 国嗣  
田原本町地域婦人団体連絡協議会会長 山岡 佐規子  
株式会社ヨシケイライブラリー営業課長 山岡 洋之  
田原本町PTA連合会会長 若林 宏文  
株式会社南都銀行田原本支店支店長 秋山 利元  
奈良中央信用金庫専務理事 谷野 守弘  
社会福祉法人田原本町社会福祉協議会事務局長 藤本 勇樹

事務局 副町長 総務部長 住民福祉部長 産業建設部長 上下水道部長 教育部長  
町長公室参事 町長公室・産業建設部参事 産業建設部参事  
秘書広報課長 人事課長  
企画財政課長 企画財政課長補佐 企画財政課政策企画係長

### 1. あいさつ

(事務局)

令和3年度第4回田原本町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会を開催する。  
開会にあたり小松原委員長よりご挨拶いただく。

(小松原委員長)

総合戦略推進委員会に出席いただき感謝する。前回の委員会では、総合計画後期基本計画及び総合戦略素案と素案に対するパブリックコメントの実施について審議を行った。本日はパブリックコメントの実施結果と計画素案の修正案を議題とする。来年度からスタートする新たな計画の策定に向けて審議を重ねてきたが、4回目の委員会ということで本日が最終となる。計画内容の決定にあたり、皆様の意見をいただきたいと思う。よろしくお願いしたい。

(事務局)

本日の出席委員は 11 名で、委員会規則第 5 条第 2 項に規定している定足数に達しているため委員会は成立。

欠席委員は 5 名。

－資料の確認－

議事にうつる。議長を小松原委員長にお願いする。

## 2. 議題

(小松原委員長)

議案第 1 号「パブリックコメントの実施結果及び第 4 次総合計画後期基本計画・第 2 期まち・ひと・しごと創生総合戦略素案の修正案について」、事務局より説明を求める。

(事務局)

資料 1 : パブリックコメントの実施結果及び第 4 次総合計画後期基本計画・第 2 期まち・ひと・しごと創生総合戦略素案の修正案について説明。

(小松原委員長)

事務局からの説明について何か意見、質問はないか。

(山岡洋之委員)

大和平野中央プロジェクトの件だが、昨年 12 月 2 日（木）に県議会を傍聴しに行った。この案件について議題があがると思われたが、あまり着目されていなかったようだ。田原本町だけでなく県全体の話になってくるので、もう少し PR した方がよいと思った。

(小松原委員長)

PR をもう少し行ってほしいということだ。

(山岡洋之委員)

議題の中心がコロナについてだったためか、話を聞く限りではほとんど話題にあがっていなかった。

(小松原委員長)

この件について事務局はいかがか。

(産業建設部参事)

一時的にそういった動きがあるのかもしれないが、昨日、地元の説明会で県より事業内容の説明があった。今後のスーパーシティ構想とも関連してくるので情報共有をして、県にこういった意見があったことは伝えたい。

(小松原委員長)

字句の確認であるが、76 ページ表の上の KPI の部分で「R2」「R8」とあるが、年次か年度のどちらなのか。

(事務局)

こちらは年度で記載している。

(小松原委員長)

他のところも年次・年度の区別がないが、そこを敢えて書かなかったのは何か意図があるのか。

(事務局)

整合性の面で総合戦略の記載についても年度で統一するので修正する。

(小松原委員長)

年度で統一するという事で承知した。

その他にいかがか。

(山岡洋之委員)

インターネット上で奈良県の住みたいまちというページがあり、興味があって閲覧している。田原本町は13位から12位に上がっていた。大東建託の資料では4位になっていることをご存じか。何で評価するかというと数字になってくる。来年は3位以上を目指さないといけない。

(小松原委員長)

ちなみに評価の基準はどのようなものなのか。

(山岡洋之委員)

生駒市などは大阪から近いなどの理由がある。医療面なども含めてホームページに出ている。

(小松原委員長)

このような情報が出ている点については事務局も把握しているか。この状況について更に上位を目指すという意見があがったがいかがか。

(町長公室参事)

把握していなかった。田原本が住みやすいまちになるように頑張っているが、現に順位が上がっているとのこと。大阪までの交通の利便性が非常によい点、まちづくりの取り組みの点が評価されていると認識している。ランキング上位を目指して頑張っていきたい。

(小松原委員長)

大東建託がアンケートを出しているということは田原本の不動産を注目しているとも考えられる。そういったことも踏まえ、まちもブラッシュアップして行ってほしい。その他いかがか。

(山岡佐規子委員)

現状の指標について、令和2年度はコロナ禍でほとんどの催しが中止になっている。例えば、スポーツ面では中央体育館が閉鎖されているなど、利用者数は、通常とは違う数値が出ているのではないかと予想される。それを指標の部分に現状として基準値というかたちで出している。コロナ禍での令和2年度の指標に対して令和8年度どうするかというのは考え直した方がよい気がする。

(小松原委員長)

基準値の妥当性として、なぜ令和2年なのかということである。

(事務局)

令和2年度を現状値として設定しており、今分かる直近の実績ということで現状の数値を入れている。

(小松原委員長)

直近のものということである。

(山岡佐規子委員)

それは分かるが、それを基準値とするには説明が必要である。それまではどうだった、その年度は特別な事情があったなど、そういったところも踏まえて資料を作っていただきたい。

(小松原委員長)

直近というだけではなく、基準値としての積極的な意味の説明が足りないという指摘である。

(若林委員)

山岡委員の意見を受け、更に発展させて考えたのだが、基準値が令和2年度の1年間のみの提示になっている。これ以前のデータがあるならば、数年分をグラフにして示すと、その後の傾向や動向が見えて分かりやすい。そこから目標と予想に差があるのか、どれくらい改善させるのか、より明確に分かると思う。過去の実績をグラフ化したものも、それぞれの場面で数値だけでなく資料として出してもえたらよいと思う。

(小松原委員長)

令和2年度が現状であり基準値であるが、出発点となるのでお二人の委員から指摘いただいた。

(山岡佐規子委員)

通常ならば直近の最新データでよいと思うが、令和2年、令和3年は特殊な事情がある。このデータの中で特殊な事情の影響があるものかないものがある。事情があるものについては説明が必要である。

(小松原委員長)

山岡佐規子委員がおっしゃるのは、令和2年を現状値としてとることが問題ではなく、各項目の令和2年において、どういう意味で妥当性があるのか、特殊事情を踏まえながら敢えて令和2年にしたという説明が重要であるということである。まさに戦略的に考えるための令和2年という部分が大事なのではないかという指摘である。

(山岡佐規子委員)

例えば、中央体育館であれば、閉鎖されているなどの特殊な事情があれば、1年前の数値も出してくるなどしてもよいと思う。そのあたりをもう少し精査していただきたい。

(事務局)

確かに、今、示しているのは令和2年度のコロナ禍での実績である。指標ごとに通常の数値なのか検証して、基準として妥当な数値や年度を再度考えていきたい。

また、各指標の実績の積み上げに関しては、例年、総合戦略推進委員会で戦略を立てた後、毎年見直しをしている。進捗状況として、資料にはそれぞれの指標に対する実績値を書いている。こちらは年を経っていくにつれて積み上げているので、現行の総合

戦略の KPI に対する各年度実績は積み上げられている状況である。今年度においても、検証の委員会の際には提示させていただいたものになる。今後もしっかりと積み上げていきたい。

(小松原委員長)

最近ウィズコロナやアフターコロナと言われているが、そのスタートが令和 2 年としてここからどのように生きていくかと考えると、令和 2 年の数字は非常に意味のあるものと個人的には考えている。数字の意味を考えるというのは非常に重要なことで、これを抜きには語れない。数字の問題を念頭に置き、計画を立てるという両委員の考えはしっかりと事務局でも反映していただきたい。

その他いかがか。

(若林委員)

76 ページの上の表にある「県で認定された大和野菜の生産品目数」は、令和 2 年度は 1 件、目標は令和 8 年度が 2 件と書いてあるが、この 2 件の中には令和 2 年度の 1 件は含まれるのか。また、県で認定されている大和野菜は何品目あるのか知りたい。そして、「高収益作物の生産へと誘導する」とあるが、具体的に高齢化が進んでいる農業に携わっている方々にどのようなアプローチをするのか。

(産業建設部長)

認定されている大和野菜については、現在、味間いもがある。令和 8 年度に 2 件となっているのは、味間いもを含めて累計として考えている。もう 1 品目、町の特産品として何かできないか検討している。もう 1 つ見つけるのは難しい状況であるが、町の特産品として進めていきたいと考えている。

大和の伝統野菜の品目については、平成 29 年時点で 20 品目が認定されている。

高収益作物への移行については、町の担い手の高齢化に伴い、町としてどのようにしていこうかというところである。昔から農業が盛んなまちだが、農業人口の高齢化に伴って担い手が不足しているという現状である。町としては、高収益作物への転換に対して補助金を助成したり、町が指定している作物への補助金などを助成したりしている状況である。新規就農者の方を町内に誘導する働きかけとしては、例えば桜井市にある NAFIC（なら食と農の魅力創造国際大学校）と調整して就農していただけるように斡旋してもらおうなどしている。

(服部委員)

64 ページ「観光力の向上と情報発信の強化」について、私も田原本まちづくり観光振興機構の理事として参加している。先月 1 月中旬に唐古・鍵遺跡史跡公園でイベントがあったのだが、車が道にあふれ、道の駅の駐車場も満車になった。何か行事をするにしても通行人に大変迷惑がかかる。3 年前に史跡公園で第 1 回流鏝馬まつりを行ったが、その時も駐車場で大変難儀した。史跡公園の東側に駐車場はあるが、周知されていない。多くの方が道の駅に停めて交通の妨げになる。今年も 11 月に第 2 回流鏝

馬まつりを計画している。史跡公園はきれいで人はたくさん集まる。しかし、何かイベントを開催するとなると駐車場の問題が出てくる。近隣の小学校をお借りするなどしているが、もう少し分かりやすく駐車場の周知をしてほしい。予算的に無理かとは思いますが、改善するために駐車場は必要と思う。観光という観点から、駐車場の必要性についてどのように考えているのか。

(産業建設部長)

様々なイベントを行う時に、道の駅が国道からのアクセスがよいということで利用されているようだ。公園の東側にも駐車場があるが、大きなイベントをする時には前もって近隣の北小学校のグラウンドを利用させていただき計画もしている。その周知活動を徹底し、更に大きなイベントでは田原本駅からシャトルバスを運行するなど、それぞれのイベント開催時に調整して極力進めたいと考えている。ただ、周辺に新たに駐車場をつくるのは財政的なこともあるので難しい。利用者のニーズもあって駐車場の拡張などは今後検討も必要だが、現状では難しいのでご理解いただきたい。

(服部委員)

周知を十分に行ってもらいたい。今でも、史跡公園での犬の散歩に多くの方が道の駅に車を停めているのを見かける。先日の凧揚げ大会にしても、大勢が集まると車で来場することになる。流鏝馬まつりの時もシャトルバスを手配し、田原本駅や中央体育館の駐車場を回るなど検討しているが、今後は大きな駐車場ができればという希望がある。

(小松原委員長)

駐車場のキャパシティは史跡公園を含めてイベント時に十分あるのかという問題と、道の駅と近鉄線とのアクセスを繋げて利用を促進するというような方法。駐車場の周知と駅からのアクセスの2点を上手くつないでいくことが必要であるという指摘である。また、道の駅にはドッグランをやっているところがあるが、ここはそういう所ではないのか。

(服部委員)

ドッグランではない。

(小松原委員長)

ただ散歩に使われているということか。道の駅も多目的に使用されている。また、防災の観点もあるため、一段と重要性を増してくるという指摘である。

その他にあるか。

(若林委員)

唐古・鍵遺跡の活用方法として企業の取り組みを提案されている方と話す機会があった。そこでアイデアが出たのだが、ドッグランなどが唐古・鍵遺跡の周辺にあればもっと人が集まるのではないかと思う。また、あるまちのホームページに、花をまとめて植えて整備したところ、インターネットにアップするために人が集まったという成功例などが紹介されていた。そのような集客のための方法について何か考えはないのか。

(産業建設部長)

ドッグランについてはイベントとして定期的開催している。イベント時には利用していただきたいが、普段からドッグランをするというのは道の駅利用者の方も多数おられるので厳しい。

花の植栽については、史跡公園の東側の一面に数年前、企業の方に提案いただき、部分的に植栽した。最近ではSNSなどできれいな場所が紹介されるという事例もあるので、町をPRする上で来ていただく戦略として今後検討したい。

(小松原委員長)

その他にいかがか。

(山岡佐規子委員)

51、52 ページのごみの問題について、地球温暖化ということで温室効果ガス排出量の目標値を立てているが、町でどのように取り組んでいくのか。ごみの分別化や有料化と書いてあるが、この有料化がごみの削減につながっているのか。ごみ袋を購入しているが、ごみの削減にどうつながっているのか。粗大ごみについても、既に有料で引き取ってもらっている。車にしても、町の公用車は電気自動車にできるかもしれないが。二酸化炭素排出量実質ゼロを目指す国の取り組みとしては分かるが、町として具体的にどういうかたちで取り組むのか。歯ブラシやインクカートリッジを集めて取り組みにつながるのか。しかも田原本町はごみの焼却場がない中で、どういうかたちで田原本町の排出量の削減と捉えるのかを説明してほしい。

(町長公室・産業建設部参事)

52 ページに記載した温室効果ガス排出量の指標「R2年度2,780」「R8年度2,200」というのは、「地球温暖化対策の推進」の田原本町地球温暖化対策実行計画（事務事業編）に基づき、町が行うすべての事務事業において、温室効果ガスの削減を目指すというもので、地域内すべての目標ではなく、あくまで田原本町の行政としての削減目標である。この実行計画の事務事業編というものを昨年度策定したため、それに基づいて具体的な取り組みを行っている。その取り組みについては、計画内等に定めており、例えば省エネの推進や電気効率の良い設備に更新していくなどハード面の取り組み、また昼休みに消灯するなどの取り組みを併せて推進することで温室効果ガスの排出量の削減に取り組んでいく。そして新たな取り組みとしては、今年度、環境省の補助金

を活用し、来年度に地域新電力の会社設立に向けて動いている。来年度に具体的に進めていくため、現時点では検討段階であるが、地域内に新電力会社を設立し、地域内で発電された再生可能エネルギーをもとに町内の公共施設に供給していくことで、最終的には行政が必要とする電力のすべてを再生可能エネルギーに変換していくというところまでできればと考えている。そうすれば当然、温室効果ガスの排出量が減っていく状況となる。

(小松原委員長)

具体的な内容が書かれている。パイロット的な役割を役場が果たすということで、新エネルギーを使うということだ。その他に、3Rの推進について具体的にどういう意味合いかという質問もあったが、いかがか。

(町長公室・産業建設部参事)

ご指摘の通り、ごみ焼却施設は町内にないため温室効果ガスの排出量とは直接は関係ない。ただ、ごみが増えれば町の負担が増え、財政を圧迫するため、町全体としてごみの量を減らし、浮いたお金を他の住民福祉向上などに回していくなどが課題としてある。ごみの削減については、本年3月から新たな取り組みとして食品資源の循環事業を実施しようと準備を進めている。具体的には、町内のすべての小・中学校と住民モニターの方々にご協力いただいて、そこで排出された生ごみなど食品の残渣を堆肥化することで燃えるごみの量を削減していく取り組みを今後行っていく。

(山岡佐規子委員)

阪手や青垣生涯学習センター周辺から法貴寺に向かって大阪ガスの工事看板が出ていて、長期にわたって工事していた。役場周辺にも看板があった気がするが、プロパンガスから都市ガスへの移行を考えているのか。

(小松原委員長)

供給体制について説明を求める。

(産業建設部長)

2年程前から大阪ガスが天理市の方から整備しており、町内では昨年度に八田の方から八条地内の方まで工事を行っている。現在は役場周辺を大阪ガスで計画的に工事を進めている。部分的な集落であって町内の集落をすべて整備するわけではないが、大阪ガスの整備計画に則ってプロパンガスから都市ガスへと計画的に整備が進められていくと聞いている。

(小松原委員長)

その他にいかがか。

(若林委員)

ごみ問題について、以前、田原本町のごみ分別が他の町に比べるとゆるいと言われたことがあった。具体的には河合町が細かく分別している。また、大阪などの都市部ではもっと分別が厳しいと聞いた。更に徹底していけば、ごみの分別の手間が省け、資源として活用できるのではないかと思う。田原本町と他市町村を比べると実際どのようなになっているのか。

(産業建設部長)

田原本町内のごみについては、やまと広域環境衛生事務組合で焼却している。五條市や御所市と一緒に組合を設立し、2市1町の基本的なルールに則って分別を行っている。他市町村は細かい分別を行っていることは認識している。今後、国のプラスチックごみ分別の法整備の動向を見ながら検討していきたい。将来的に分別は重要なことで、環境問題としても総合的にごみの量を減らすことは大きな目標であるので、リサイクルに向けて進めていきたい。

(小松原委員長)

その他に意見、質問はいかがか。

ないようなので、事務局の案の通りの修正を承認し、この内容を町の計画とする。ただ、意見が出ていた件については、今後実施等の段階も含めて考慮いただきたい。

本日の田原本町第4次総合計画後期基本計画・第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略素案について、この内容を町の計画としてよいか。

—了承—

これで議事が終了した。昨年6月から審議いただき、委員の皆様には活発な意見、発言をいただいた。審議を円滑に進めるにあたり協力いただき、感謝する。進行を事務局にお返しする。

(事務局)

小松原委員長、議事進行に感謝する。

本日をもって今年度の委員会の日程はすべて終了となる。長期にわたり貴重な意見をいただき、感謝する。これまで審議いただいた結果を踏まえ、3月中の計画策定に向けて進めていきたいと考えている。計画は完成後、委員の皆様にお渡しする。また、来年度以降については新たな計画の進捗管理や効果検証について審議いただくこととなる。今後ともよろしく願います。

これをもって令和3年度第4回田原本町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会を終了とする。